

《日記》 はじめてのローラーコースター

アクション 小三

五月二十九日がぼくの弟のおたんじょう日だったので、レゴランドに行きました。一日目に、小さいローラーコースターにのりました。楽しかったです。あと、空中ブランコにのったあとゴルフで二回ホールインワンをしました。ぼくは自分のことをすごいなあとおもいました。家ぞくみんながみんなもよそうをしていなかったのでビックリしました。

夕方になってホテルに行きました。ホテルはきれいで、ベッドがふかふかよくねむれました。



つぎの日に、またレゴランドに行きました。お母さんが、

「もっと大きいローラーコースターにのろうよ。」と言って、大きいローラーコースターにむかいました。ぼくはちよつとふあんになりました。のったときに、大きい声でさけびました。楽しかったので、もう一ど行こうとしたけれど、ぼくたちがいたエリアで、火きいがはっせいしたようで、そこからはなれないといけなくなりました。あんぜんがたしかめられたあとで、もう一回ローラーコースターにのりました。ぼくからのローラーコースターにのるときのアドバイスは、おなかがヒューとなったら、大声でさけぶことです。

【評】ホールインワン、おめでどう。次にローラーコースターに乗る時は、先生も叫んでみますね。

《なりきり日記》 おじさんに助けてもらった日

クワイートン 小四

今日は小さな男の子につかまって、白いぼうしの中にとじこめられました。暗くて、せまかったので、こわかったけれど、おじさんが助けてくれました。

友達にまた会いたかったので、おじさんのタクシーに乗って、菜の花橋につれて行ってもらいました。そこに着いたとたん、わたしは、そうっともん白ちようのすがたにもどりました。

もう一回友達に会えて、うれしかったので、そのおじさんにおれいを言いたいです。お金をはらわなくて、ごめんなきいと言いたいです。



【評】『白いぼうし』に出てくるもん白ちようになりきって、一日の出来事を振り返ることができました。おじさんにお礼を言うために今度は何に変身するのかな。

《感想文》 「外国語」を読んで

アクション 日七

この物語の名前は『外国語』です。主人公は五十四才の女の人で、えい会話の学校に行っています。かの女のしゅ味は絵をかくことで、目標はいつか外国で絵をかくいて、外国人とえい語でいろいろ話ができることです。



時々、先生にしつ問されるとき、たん語が出てこなくてうまく答えられないことがあります。先生はむずかしく答えなくていいと言いますが、なかなかできません。時々、週末の話を話したくなくて少しおくれくる人もいます。

ある時、かの女もおくれて行くこまよいました。週

まっに変なことが起きたからです。となりの家が火事でもえてしまったのです。くわしいことがせつ明できるか自信がありませんでした。でも火事はこわいことで、気をつけてほしいと、どうしてもみんなにつたえたかったので、「行こう」と決心しました。

この主人公が読者につたえたいことは、新しい言語を勉強する時、できないとすぐあきらめるのではなく、ゆう気を出して話してみることが大事だということだと思ひます。ぼくも今、スペイン語を勉強していますが、ぼくもこの話の主人公と同じで、あまり自信がなくてもがんばって話してみようと思ひます。それが外国語が一番上手になる方法だと思ひます。

【評】外国語が上達するにはどうしたらよいか、よく考えて自分の意見をていねいに述べられましたね。

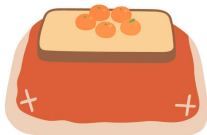
《創作文》 自分流「枕草子」

メント 中二

春はりんご。皮ごと食べられるのがあるがたし。うさぎ形に切られたりんごが売られているのはいとをかし。夏はスイカ。午後二時頃の最も暑い時間帯に日陰で涼みながらスイカを食べている様子はをかし。スイカは一緒に食べる人数が多ければ多いほどまし。種が食べられないのはわるし。

秋は日本梨。とてもみずみずしいのに、ちゃんと甘みがあるのは不思議。梨を常温で放置すると、シャキシャキがなくなってしまうのはわるし。

冬はみかん。こたつで食べるにかき。祖母の家のこたつは常にみかんが置いてあるのがいとをかし。



【評】「果物」を題材に春夏秋冬の「をかし」を上手に表現することができました。一つ一つに具体性があるのがいいですね。